

令和元年6月22日現在

機関番号：13101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K20694

研究課題名(和文)透析看護の実践能力評価尺度の開発

研究課題名(英文) Development a self-assessment scale of nursing competence in chronic dialysis nursing

研究代表者

清水 詩子 (SHIMIZU, Utako)

新潟大学・医歯学系・准教授

研究者番号：10401762

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：目的は、慢性透析看護の実践能力評価尺度の開発である。透析時のケア、腎代替療法の導入・非導入・変更のサポート、セルフケア支援、がんをかかえる患者・家族のサポート、療養の継続に支援を要する患者の支援体制整備、業務管理への参画を含む質問紙(63項目)を透析看護認定看護師221名に配布、121部の有効回答を得た(有効回答率54.8%)。因子分析の結果、「安全な慢性透析を提供する力」、「合併症を抱えた慢性透析患者の療養生活をサポートする力」、「慢性透析導入・中止および継続をサポートする力」の3因子37項目の尺度とした。累積寄与率59.58%、Chronbach 係数は0.973であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、安全な血液透析の提供とともに、合併症を抱えた慢性透析患者の療養生活のサポート、および、慢性透析導入・中止および継続のサポートができる力を評価可能な尺度を作成したことである。これらの力は、慢性血液透析患者の高齢化・治療の長期化に伴い、今後、一層重要となる慢性透析看護の実践能力の要素である。本尺度は、看護師の自己評価に基づく自己研鑽を促進するとともに、合併症を抱えた慢性透析患者の支援および慢性透析に関する意思決定支援について、実践能力向上の手がかりを得るために活用できる。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to develop a self-assessment scale of nursing competence in chronic dialysis nursing. The questionnaire is comprised of 63 items grouped in [Care during dialysis], [Support to introduce / not introduce / change renal replacement therapy], [Self-care support], [Support for patients with cancer and their families], [Arrangement for support of patients who need to continue medical treatment], and [Participation in task management]. Participants were 221 certified nurses in dialysis nursing, and 121 of the provided responses were valid (54.8%). As a result of a factor analysis (main factor method), we selected 37 items in 3 factors: "Skills to provide safe chronic dialysis (17 items)", "Skills to support the life of patients who have been undergoing treatment with complications (13 items)", and "Skills to support to introduce / discontinue / continue chronic dialysis (7 items)". The cumulative contribution rate was 59.58%, and Chronbach's alpha coefficient was 0.973.

研究分野：慢性疾患看護

キーワード：看護実践能力 尺度開発 慢性透析看護 透析合併症 意思決定

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本では、血液透析の治療期間の長期化、高齢患者の増加を背景に、複雑な問題をかかえた透析患者に対する質の高い支援の提供が課題となっている。透析看護の質の維持・向上のためには、透析看護を実践する看護師の看護実践能力の向上が課題のひとつである。看護実践能力とは、Pub Med の MeSH (Medical Subject Headings) には「通常専門職者の職務行為または容認可能な技術をもって専門職者が行うことができる能力」、「患者ケアに直接関連する職務を容認可能なレベルで行う能力」とされている。これらに基づき、本研究において看護実践能力は、「看護師が患者ケアに直接関連する職務を容認可能なレベルで行う力」と定義する。そして、看護実践能力の構成要素は、「人々・状況を理解する力」「人々中心のケアを実践する力」「看護の質を改善する力」とされている¹⁾。

さらに、実践能力を育成する方法として、看護師が自らの能力を評価し看護実践能力を認識しながら臨床の経験の積み上げによって自信を持つような内省的実践が重要とされている^{2),3)}。この内省的実践の方法のひとつとして、自己評価尺度の活用による看護実践能力の継続的な把握があげられる。

看護実践能力を包括的に測定する尺度として、6-Dimension Scale of Nursing Performance (6-D)の日本語版と看護実践能力自己評価尺度 (Clinical Nursing Competence Self-assessment Scale; CNCSS)がある。6-Dは、1970年代に Schwiria が開発したものであり、6-D日本語版を用いた調査が数多く行われている。その後、看護師の実践能力の評価と教育的意義、課題を明確にすることを目的として、看護実践能力自己評価尺度 (Clinical Nursing Competence Self-assessment Scale; CNCSS)が開発されている⁴⁾。

6D と CNCSS のような看護実践能力に関する包括的尺度に対し、看護師の問題解決行動自己評価尺度⁵⁾、在宅における看護実践能力自己評価尺度⁶⁾、急性期病院における看護実践能力尺度⁷⁾のような特異的尺度の開発も行われている。複雑な問題を有する透析患者の増加が予測されるなか、現在、明らかにされていない透析看護の実践能力の概念と構造を明らかにし、透析看護の実践能力に特化した特異的尺度の開発が求められていると考える。

2. 研究の目的

慢性透析看護の実践能力の概念と構造を明らかにし、透析看護の実践能力の自己評価尺度を開発する。

3. 研究の方法

1) 慢性透析看護の実践能力に関する質問紙の作成

慢性透析看護の実践能力に関する項目の作成にあたり、透析療法指導看護師の軌跡⁸⁾に掲載されている透析療法指導看護師(現慢性腎臓病療養指導看護師)による実践報告のうち、慢性透析看護の実践について記述されており、周産期および透析療法を経験したことのない患者への実践を除く69件の報告を用いた。69件の報告から、看護実践能力の構成要素である「人々・状況を理解する力」「人々中心のケアを実践する力」「看護の質を改善する力」¹⁾について記述された箇所をデータとし質的帰納的分析を実施、慢性透析看護の実践能力を構成する要素を抽出し、質問項目とした。質問項目は、【透析時のケア】10項目、【腎代替療法の導入・非導入・変更のサポート】9項目、【セルフケア支援】23項目、【がんをかかえる患者・家族のサポート】6項目、【療養の継続に支援を要する患者の支援体制整備】11項目、【業務管理への参画】4項目の計63項目とし、6段階のリッカート尺度とした。加えて、対象者の属性として、看護師経験年数、透析看護の経験年数、役職・役割(チームリーダー、プリセプターなど)の経験、学歴、有する資格、に関する項目を含んだ。質問項目は、慢性疾患看護専門看護師および透析看護認定看護師の各1名と検討した。

2) 「慢性透析看護の実践能力評価尺度」の作成

対象は、透析看護を熟知している者として、透析看護認定看護師のうち2019年2月現在、日本看護協会ホームページに氏名と所属が公開されている221名とし、説明文および質問紙を郵送し、回答済の質問紙の返送をもって研究参加に同意が得られたこととした。

分析方法は、慢性透析看護の実践能力に関する項目は、天井効果、床効果、項目間相関を確認の後、主因子法プロマックス回転による因子分析を行い構成概念妥当性の検証と、Chronbach の係数による信頼性の検証を行った。

3) 倫理的配慮

新潟大学倫理委員会の承認を受けて実施した(承認番号: 2018-0321)。

4. 研究成果

質問紙の配布221部、回収122部、有効回答121部(有効回答率54.8%)であった。対象の看護師経験年数は23.1±6.8年、透析看護の経験年数は16.0±5.8年であった。

質問項目は、天井効果および床効果を確認(除外項目なし)の後、Item-Total (I-T) 相関分析で相関係数(以下r)=0.2未満(除外項目なし)項目間相関でr=0.7より大きい片方の項目(19項目)を削除した。因子分析を行い、因子負荷量が0.35に満たない項目と複数の項目に負荷量の高い項目を削除(計7項目)しながら探索的因子分析を繰り返し、3因子解

を採用した。第1因子は「安全な慢性透析を提供する力(17項目)」、第2因子は「合併症を抱えた慢性透析患者の療養生活をサポートする力(13項目)」、第3因子は「慢性透析導入・中止および継続をサポートする力(7項目)」の計37項目で、累積寄与率は59.58%であった。第1因子「安全な慢性透析を提供する力」は、カリウム、リン、体重コントロール、下肢の皮膚トラブル、心不全、シャントトラブル、転倒に関する支援力が含まれた。第2因子「合併症を抱えた慢性透析患者の療養生活をサポートする力」は、血糖コントロール、認知機能低下、がん、下肢切断、日常生活の継続、長期透析の痛み、ADL低下、在宅での医療処置に関する支援力が含まれた。第3因子「慢性透析導入・中止および継続をサポートする力」は、慢性透析の導入に伴うセルフケア・生活への適応、慢性透析の導入・非導入・中止の意思決定、慢性透析に関する不満を持つ患者との関係形成に関する支援力が含まれた。

Chronbachの α 係数は、第1因子は0.942、第2因子は0.944、第3因子は0.879、全体は0.973で、内的整合性は高いといえた。

慢性透析看護は、安全な血液透析の提供に加え、合併症を抱えた慢性透析患者の療養生活のサポート、および、慢性透析導入・中止および継続のサポート、ができる力が求められることが示唆された。慢性透析看護の実践能力の向上のため、本尺度を活用し看護師の自己研鑽を促進するとともに、合併症を抱えた慢性透析患者の支援および慢性透析に関する意思決定支援の充実が期待される。

文献

- 1) 松谷美和子 他: 看護実践能力: 概念、構造、および評価、聖路加看護学会誌, 14(2), 18-28, 2010.
- 2) Loving, G.L. Competence validation and cognitive flexibility: A theoretical model grounded in nursing education. *Journal of Nursing Education*, 32(9), 415-421, 1993
- 3) Laschinger, H.K.S. Impact of nursing learning environments on adaptive competency development in baccalaureate nursing students. *Journal of Professional Nursing*, 8(2), 105-114, 1992.
- 4) 丸山育子 他: 看護系大学卒業の看護師の看護実践能力を測定する「看護実践能力自己評価尺度(CNCSS)」の適合度の検討, 福島県立医科大学看護学部紀要, 13, 11-18, 2011.
- 5) 服部美香 他: 看護師の問題解決行動自己評価尺度の開発: クライエントの抱える問題を解決するために必要な看護師行動の質向上に向けて, 千葉看護学会誌, 16(1), 9-16, 2010.
- 6) 三浦弘恵 他: 在宅における看護実践自己評価尺度の開発, 千葉看護学会誌, 11(1), 31-37, 2005.
- 7) 真下綾子 他: 急性期病院における看護実践能力尺度の開発, 日本看護管理学会誌, 15(1), 5-16, 2011.
- 8) 平方秀樹 監修: 日本腎不全看護学会資格認定制度 透析療法指導看護師(DLN:Dialysis Leading Nurse)の軌跡, 医薬ジャーナル社, 2014.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

- 1) Utako Shimizu, Hagiko Aoki, Momoe Sakagami, Kohei Akazawa. Walking ability, anxiety and depression, significantly decrease EuroQol 5-Dimension 5-Level scores in older hemodialysis patients in Japan. *Archives of Gerontology and Geriatrics*, 78, 96-100, 2018.
- 2) 清水詩子, 坂上百重, 青木萩子: 高齢血液透析患者が通院困難を認識しながら通院を継続する過程, 日本慢性看護学会誌, 11(1), 9-15, 2017.
- 3) Utako Shimizu, Momoe Sakagami, Mieko Uchiyama, Hagiko Aoki: Life Adjustments of Elderly Hemodialysis Patients for Continuing to Attend Dialysis Facility, *Open Journal of Nursing*, 5(10), 878-884, 2015.
- 4) Utako Shimizu, Yuji Mitadera, Hagiko Aoki, Kouhei Akazawa: Dialysis patients' utilization of health care services covered by long-term care insurance in Japan, *Tohoku Journal of Experimental Medicine*, 236(1), 9-19, 2015.

[学会発表](計 5 件)

- 1) 清水詩子: 透析療法指導看護師(DLN)の実践に基づく透析看護に必要とされる能力(口演), 第21回日本腎不全看護学会学術集会, 2018年11月10-11日, 長野市.
- 2) 清水詩子, 青木萩子, 坂上百重: 高齢血液透析患者の歩行能力がうつと不安の症状出現に与える影響(口演), 第20回日本腎不全看護学会学術集会, 2017年10月21-22日, 盛岡市.
- 3) Utako Shimizu, Hagiko Aoki, Kimiko Uehara, Momoe Sakagami, Effect of reduced walking ability on Anxiety and Depression Symptoms in Elderly Hemodialysis Patients in Japan, 2017 International Council of Nurses Congress, 27 May-1 June 2017, Barcelona.
- 4) 清水詩子, 坂上百重, 青木萩子: 高齢血液透析患者のEuroQol five dimensions question

- naire 5 levels(EQ-5D-5L)値に影響を与える生活要因(口演),第19回日本腎不全看護学会
学術集会, 2016年11月26-27日, 大阪市.
- 5) 清水詩子, 坂上百重, 青木萩子: 高齢血液透析患者が通院困難を認識しながら長期に通院
を継続する過程(口演), 第19回日本腎不全看護学会学術集会, 2015年11月14-15日, 名
古屋市.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。